

干潟の名称	筑後川
干潟の所在地	福岡県柳川市, 大川市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	泥質, 砂泥質
干潟植生	ヨシ群落
干潟の特徴	有明海に注ぐ筑後川河口と河岸に発達した広大な干潟である。有明海は干満の差が激しいため、河川では約 20 km 上流 (久留米市) の筑後大堰付近まで干潟が干出する。また、沿岸部では 10 km 以上沖合にまで干潟が広がる。干潟部の底質は主として、海岸部では泥質 (軟泥質), 沖合では砂泥質である。また、河岸部には泥質干潟が多い。ヨシ群落は河口付近はまばらで、上流ほど密になった。
生物相の特徴	泥地にはハラグクレチゴガニ, ヤマトオサガニ, ムツハアリアケガニが, 砂泥地にはアサリ, コケガラス, サルボウが多かった。沖合の泥地にはカキ礁が散在し, 周辺は異なる生態系を形成していた。本調査で, 沖合にミドリシャミセンガイ多産地, 新田大橋付近に****の多産地を発見。
調査者氏名	逸見泰久, 坂本公太郎, 平野光祐, 川田和博, 上野至朗
調査年月日	2002年7月10日, 9月20日

干潟の名称	沖端川
干潟の所在地	福岡県柳川市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	泥質, 砂泥質
干潟植生	ヨシ群落
干潟の特徴	有明海に注ぐ沖端川の河岸と河口に発達した河口干潟である。ただし、河口部では隣接する一級河川筑後川の影響が大きい。干満の差が大きいため、沖合10km以上に渡って干潟が干出する。湿地植生は、沖端川河岸には見られるが、海岸部は干拓の影響もあり皆無である。以下、調査ライン毎に特徴を記す。A（橋本干拓地先）：海岸部は軟泥。沖合は砂泥。B（沖端川河口）：海岸部には石積みがある。干潟は軟泥。沖合は泥～砂泥。C（沖端川河岸）：上部は泥～砂泥、下部は軟泥。
生物相の特徴	底生動物相は比較的多様で、大陸遺存種も多く見られた。調査範囲が広く、場所によって生物相が大きく異なったため、調査ライン毎に特徴を記す。A（橋本干拓地先）：海岸部にはムツハアリアケガニ以外の底生動物は少なかった。沖合には、ムツハアリアケガニ・トゲイカリナマコ・ヤマトオサガニが多かった他、ミドリシャミセンガイ・サンショウウニも見られた。B（沖端川河口）：海岸部にはヤマトオサガニが多かった他、****・****が見られた。沖合にはサルボウ・コケガラスのコロニーがあり、トゲイカリナマコが多かった。C（沖端川河岸）：上部・下部ともハラグクレチゴガニを除けば、底生動物は少なかった。植生（ヨシ群落）：****が多かった。
調査者氏名	逸見泰久, 坂本公太郎, 平野光祐, 上野至朗
調査年月日	2002年4月27～28日

干潟の名称	矢部川
干潟の所在地	福岡県山門郡大和町, 三池郡高田町, 大牟田市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟, 一部前浜干潟
干潟の底質	泥質, 砂泥質, 一部砂質
干潟植生	ヨシ群落, 三池には小規模だがコアマモの群落あり
干潟の特徴	有明海に注ぐ矢部川の河口と河岸に発達した干潟. 矢部川には, 堂面川, 大牟田川, 諏訪川が隣接するが, いずれも流量が少なく, 干潟形成においては矢部川の影響が大きい. ただし, 三池港付近は矢部川の影響が小さく, 前浜干潟の傾向が強い. 植生としては, ヨシ群落が矢部川に見られる他, 小規模ではあるがコアマモが三池に繁茂している.
生物相の特徴	海岸部の泥地にはヤマトオサガニが, 砂泥地にはムギワラムシ, フサゴカイの1種が, 沖の泥質-砂泥質干潟にはイシワケイソギンチャク, アナジャコ, オリレヨフバイ科が多かった. 河岸部の泥地にはハラグクレチゴガニ, ドロクダムシ科の1種が多く, ヨシ群落には****, ヒロクチカノコ, カワザンショウ類が多かった.
調査者氏名	逸見泰久, 坂本公太郎, 平野光祐, 川田和博
調査年月日	2002年4月29~30日

干潟の名称	和白干潟
干潟の所在地	福岡市東区
干潟の面積	約80ha
干潟の地形タイプ	前浜干潟, 一部河口干潟
干潟の底質	砂泥質ないし砂質, 一部泥質
干潟植生	ヨシ群落
干潟の特徴	博多湾の湾奥部にある砂泥～砂質の干潟。ただし, 河口部分は泥質になっている。大都市福岡にあるにも関わらず, 自然海岸率が高い。近年, 流入河川の集水域の都市化や海岸部の開発に伴って水質・泥質が悪化し, 底生動物相が貧弱化している。また, 沖合に和白干潟を塞ぐ形状で人工島(埋立面積 401 ha)が建設されているため, 干潟への海水の出入り妨げられている。
生物相の特徴	一般に底生動物相は貧弱である。特に砂泥が還元化した場所ではオオノガイ, ソトオリガイ, オキシジミ, アサリなどが少数棲息するだけであった。一方, 還元化が比較的弱い砂地ではコメツキガニ・ウミナナ類, タマシキゴカイ, 砂泥地ではオオノガイ, オフェリアゴカイ科の1種が多く見られた。
調査者氏名	逸見泰久, 甲斐孝之, 安藤俊朗, 岡本直子, 戸田博之
調査年月日	2002年4月26日

干潟の名称	曾根干潟
干潟の所在地	福岡県北九州市小倉南区
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	前浜干潟, 河口干潟
干潟の底質	砂泥質ないし泥質, 一部砂質
干潟植生	ヨシ群落
干潟の特徴	周防灘に面した海岸の奥まった部分に発達した干潟である。大野川を始めとする小河川が流入するが、河川が運搬する土砂は少なく、河口干潟はほとんど発達しない。河川の河岸と北奥部に小規模なヨシ群落が発達している。現在、新北九州空港建設のため、沖合の海域 373 ha を埋立中、曾根干潟への影響が懸念される。底質は、大部分が砂泥～泥質で、一部には転石も見られる。
生物相の特徴	底生動物相は比較的多様であった。A (大野川) : 上部にはチゴガニ, 下部にはアナジャコが多かった。B (貫川) : 上部にはコメツキガニ・ウミニナ類が多く, 下部にはアナジャコ・ヤマトオサガニが多かった。汀線付近にはホトトギスのマットが広い範囲に見られ, 強く還元化していた。C (朽網川) : 上部にはヘナタリ類が多かった。中～下部にはヤマトオサガニ・オキシジミが多かった。植生 (ヨシ群落) : アシハラガニ・****が多かった。また, カブトガニの遺骸が6個体打ち上げられていた。
調査者氏名	逸見泰久, 甲斐孝之, 安藤俊朗, 岡本直子, 坂本公太郎
調査年月日	2002年4月25日

干潟の名称	諫早湾北岸
干潟の所在地	長崎県北高来郡高来町、小長井町
干潟の面積	約170ha
干潟の地形タイプ	前浜干潟
干潟の底質	泥質、砂泥質、砂礫質、または砂質（アサリ養殖場、砂は外部からの持ち込み）
干潟植生	部分的にヨシ原や塩生植物（ハママツナなど）
干潟の特徴	<p>有明海奥部の諫早湾の北岸で、多良岳山麓に位置する。多良岳山系から流入する河川はどれも小さく、急傾斜で海に至っているため河口域がほとんど発達しない。</p> <p>小長井町の井崎（A地点）周辺では干潟に砂が外部から搬入され（現在は壱岐などから）、アサリが養殖されている（稚貝はかつては熊本県から持ち込まれていたらしいが現在は不明）。有明海特有の筆や「おとり」をつかったアナジャコ漁も行なわれている。高来町と小長井町の町境（水の浦、B地点）では、石を積み上げた構造物で魚をとる「すくい」が現在もなお使われている（有明海唯一の場所）。</p> <p>1997年4月に全長7kmの潮受け堤防による諫早湾奥部の閉め切り（潮止め）が実施されたため、高来町の金崎名以西の本明川沿いの泥質干潟が消滅した。それ以降、堤防外の小長井町の井崎周辺の干潟では、赤潮によってアサリが大量に死滅するなどの被害がでている。</p>
生物相の特徴	干潟生物相の特徴：干潟の規模は大きくはないが、底質環境が多彩であり、諫早湾のなかで特に生物多様性の高い場所であった（佐藤自身の8年前の調査結果：未発表）。かつて多産したクロサメハダホシムシ（ <i>PhascoIosoma onomichianum</i> ）やカンテンフサゴカイ（ <i>Amaeana</i> sp.）が今回の調査では全く採集できなかった。
調査者氏名	佐藤正典、学生5名（戸上、田伏、佐々木、東郷、鎌田）、地元協力者：富永健司、酒井太一
調査年月日	2002年4月28日

干潟の名称	諫早湾南岸
干潟の所在地	長崎県南高来郡吾妻町、瑞穂町、国見町、有明町
干潟の面積	約 450ha
干潟の地形タイプ	前浜干潟
干潟の底質	砂質、砂泥質または砂礫質
干潟植生	神代長浜に小規模なコアモモの群生がある
干潟の特徴	有明海奥部の諫早湾の南岸で、島原半島沿いに位置する。島原半島から流入する河川はどれも小さく、急傾斜で海に至っているため河口域がほとんど発達しない。神代長浜（A 地点）は海水浴場となっている。この神代長浜をはじめとする干潟全域で、地元住民ら潮干狩りでアサリやマテガイなどを採集しているほか、有明海特有の筆や「おとり」をつかったアナジャコ漁が盛んである。1997 年 4 月に全長 7km の潮受け堤防による諫早湾奥部の閉め切り（潮止め）が実施されたため、吾妻町以西の干潟が消滅した。
生物相の特徴	神代長浜は、かつてはオオシャミセンガイ（絶滅が危惧される腕足類、有明海特産種）の貴重な産地として知られていたが（菅野）、近年はその生息がまったく確認されていない（木村キヲ私信）。マテガイやタイラギなどの二枚貝も激減しているという。それにかわってアナジャコが増えているように思われる（佐藤自身の 8 年前の調査と比較）。
調査者氏名	佐藤正典、学生 5 名（戸上、田伏、佐々木、東郷、鎌田）
調査年月日	2002 年 4 月 27 日

干潟の名称	中津港周辺
干潟の所在地	大分県中津市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟, 前浜干潟
干潟の底質	砂泥質, 一部泥質
干潟植生	ヨシ群落
干潟の特徴	山国川河口に広がる河口干潟。ただし, 中津港周辺は山国川の影響が小さく, 前浜干潟の傾向が強い。底質は泥質・砂泥質・砂質と変化に富んでいる。蛸瀬川河口部にはラグーン及びヨシ群落があり, 多様な生物相を有する。また, 砂泥地の広い範囲にコアマモが繁茂している。
生物相の特徴	泥地にはヤマトオサガニ, アラムシロ, 砂泥地にはチゴガニ, ユビナガホンヤドカリ, シオフキ, 砂地にはコメツキガニ, ウミニナ類が多かった。また, ラグーン・ヨシ群落ではアシハラガニ, ユビナガホンヤドカリ, ヘナタリ類が多かった。また, 個体数は多くはないが, カブトガニ, ハマグリ, マテガイ, イボキサゴなど, 他の干潟では絶滅が危惧されている種が健在である。
調査者氏名	逸見泰久, 甲斐孝之, 安藤俊朗, 岡本直子, 足利由紀子
調査年月日	2002年5月27日

干潟の名称	笠利湾
干潟の所在地	鹿児島県大島郡笠利町
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	前浜干潟
干潟の底質	砂泥質(場所によっては小さな礫が混じる), 一部砂質
干潟植生	メヒルギ群落
干潟の特徴	笠利湾の湾奥部に発達した干潟. 小河川が流入している海岸部には小規模なメヒルギ群落が見られる. A(赤木名): 上部は礫混じりの砂泥で小型の転石も見られる. 下部は砂質でサンゴの破片が散在する. B(手花部): 上部は砂泥→砂質, 下部は砂泥→泥質で, サンゴ礫が混じる. C(喜瀬): 上部にはラグーンがあり泥→砂泥質, 下部は砂泥でサンゴ礫が多い.
生物相の特徴	A(赤木名): ミナミコメツキガニが多かった. 下部にはサンゴの群体(キクメイシモドキ)が見られた. B(手花部): 上部にはオキナワハクセンシオマネキ・ヒメシオマネキ・リュウキュウウミニナが多かった. 下部にはミドリシヤミセンガイ・スジホシムシモドキが多かった. C(喜瀬): ラグーンにはツノメチゴガニ・ヒメヤマトオサガニが多かった. 下部はコメツキガニ・オキナワハクセンシオマネキなどを除けば, 底生動物が少なかった. 植生(メヒルギ群落): ウミニナ類が非常に多かった. オキナワハクセンシオマネキ・ミナミアシハラガニも多かった.
調査者氏名	逸見泰久, 坂本公太郎, 平野光祐
調査年月日	2002年6月11日

干潟の名称	住用川
干潟の所在地	鹿児島県大島郡住用町
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	砂泥質, 泥質
干潟植生	メヒルギ群落
干潟の特徴	住用川の河岸と河口に発達した干潟で, メヒルギ群落が発達している. A (山間): 上部は砂質, 礫混じりの砂泥で転石も多い. 下部は泥質. B・C (役勝・住用): 上部は砂〜砂泥質で, メヒルギ群落の周囲は泥質. 場所によっては礫が混じる. 下部は泥〜砂泥質. 植生 (メヒルギ群落): 底質は砂泥〜砂質. かなり密な植生で内部は暗い.
生物相の特徴	砂泥地ではミナミコメツキガニ, 泥地ではヒメヤマトオサガニが優占した. A (山間): 上部にはコメツキガニ, 中部の転石地にはマガキ, 下部の泥地にはヒメヤマトオサガニが多かった. B (役勝): 上〜中部にはヒメヤマトオサガニ・ツノメチゴガニ, 下部にはミナミコメツキガニ・ブビエスナモグリが多かった. C (住用): 全域でミナミコメツキガニ・ヒメヤマトオサガニが多かった. 植生 (メヒルギ群落): ハシリイワガニモドキ・スミヨウカワザンショウが多かった他, 打ち上げられた植物の周囲にはハマトビムシ科の1種が多かった.
調査者氏名	逸見泰久, 坂本公太郎, 平野光祐
調査年月日	2002年6月12日

干潟の名称	喜入町メヒルギ林湿地
干潟の所在地	鹿児島県喜入町（日石喜入基地裏）
干潟の面積	約30ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	泥質、砂泥質
干潟植生	愛宕川河口域内にメヒルギ林およびヨシ原
干潟の特徴	<p>日本石油基地（株）喜入基地のある埋め立て地の裏側に残されている愛宕川と八幡川の河口域内の干潟である。規模は小さいが、メヒルギ林の大平洋での北限地として重要である（一般にはもっと南の喜入町生見がメヒルギ林の北限とされ、そこには「北限地」標識が建っているが、本調査地の方がより北に位置し、メヒルギの生育状況もより良好である）。</p> <p>八幡川の河口南側には、砂質の前浜干潟（約10ha）もあり、そこはギボシムシ類、ウミサボテン、オカメブンブクなどが多産する貴重な干潟であったが、つい最近、漁港整備という名目で、この前浜干潟はほぼ完全に消滅した。</p>
生物相の特徴	干潟生物相の特徴：愛宕川河口域のメヒルギ林周辺や八幡川の河口域内には、ハクセンシオマネキが群生している。そのほか、ウミニナ類（ウミニナ、ホソウミニナ、カワアイ、フトヘナタリなど）の生息密度も高い。
調査者氏名	佐藤正典、学生3名（戸上、田伏、石川）
調査年月日	2002年5月28日

干潟の名称	重富海岸
干潟の所在地	鹿児島県始良郡始良町
干潟の面積	約50ha
干潟の地形タイプ	前浜干潟および河口干潟
干潟の底質	泥質、砂泥質
干潟植生	河口干潟の上部にヨシ原
干潟の特徴	<p>思川の河口域内の干潟は規模は小さいが比較的良好な自然環境が保たれている。河口の外側の東側に比較的大きな前浜干潟（山野海岸）が発達しており、海水浴場あるいは地元漁協が管理する潮干狩りの場となっている。ここは1994年頃に干潟全域を埋め立てる計画があったが事実上その計画は中止され、現在に至っている。河口西側にも前浜干潟が存在するが（脇元海岸）、ここでは数年前に干潟の一部が埋め立てられ、漁港関連施設が建設された。</p> <p>山野海岸では、漁協によって毎年アサリが放流されている。かつては有明海産のアサリが放流されていたが、現在はどこから来ているか不明である。</p>
生物相の特徴	<p>かつての佐藤らの調査では、88種のマクロベントスが確認されている（鹿児島大学理学部生物学科環境生物学教室, 1995）。前浜干潟では、棲管をつくる多毛類（ムギワラムシ、スゴカイイソメ）やオサガニが比較的高密度で生息しており、また、絶滅が危惧されるハマグリ産地としても重要である（ただし、最近のアサリの放流によって国外からシナハマグリが持ち込まれているのではないかと強く懸念される）。</p>
調査者氏名	佐藤正典、学生3名（戸上、田伏、石川）
調査年月日	2002年5月14日

干潟の名称	長井浜
干潟の所在地	福岡県行橋市, 築上郡
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	前浜干潟 (B: 長井浜)・河口干潟 (A: 西角田, C: 祓川)
干潟の底質	西角田 (A): 泥-砂泥質, 長井浜 (B): 砂質, 祓川 (C): 礫混じりの砂泥または泥質
干潟植生	河岸や前浜干潟上部にヨシ原が点在するのみ.
干潟の特徴	周防灘に面した海岸に広がる前浜の砂質干潟である. 河川があるところは, 部分的に砂泥または泥質の河口干潟になっているが, 河川流域でも海岸部は砂質の前浜干潟である. 海岸部の干潟は周辺の干潟と連続性があり, 現在は漁港や港湾で分断されているが, 福岡県曾根から大分県宇佐まで連続した広大な干潟の一部と見ることができる. 西角田 (A) は石堂川などの小河川が流入する河口干潟と海岸部の前浜干潟よりなる. 調査は河口干潟の部分で行った. なお, 海岸部は漁港になっている. 長井浜 (B) は広大な砂質の前浜干潟で, バカガイ・マテガイ漁や定置網漁などが盛んな海域である. 祓川 (C) は河口干潟で, ヨシ原などの植生が比較的多く見られる. なお, 大部分河川には河口堰があり, 感潮域は短い.
生物相の特徴	西角田 (A) では多毛類, ウミユナ類, ソトオリガイ・オキシジミなどの二枚貝, コメツキガニ・ヤマトオサガニ・シオマネキなどのスナガニ類, ハサミシヤコエビが多く見られた. 長井浜 (B) は生物が貧弱で, マテガイやコメツキガニが多く見られた程度であった. 祓川 (C) ではゴカイ科の数種, ヘナタリ類, ハゼ科が多く見られ, 上部のヨシ原 (植生) ではヘナタリ類, ケフサイソガニが多く見られた他, カワザンショウ類, ヒロクチカノコ, シジミ類, アリアケモドキ, クシテガニも見られた.
調査者氏名	逸見泰久, 坂本公太郎, 川田和博, 上野至朗, 中村加奈
調査年月日	2003年10月26日

干潟の名称	六角川
干潟の所在地	佐賀県福富町, 白石町, 江来た町, 芦刈町, 久保田町, 佐賀市, 東与賀町 ほか
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	海岸 (A) : 泥-軟泥, 河口 (B) : 砂泥-軟泥, 河岸 (C) : 軟泥
干潟植生	六角川河岸 (C 付近) にヨシ原が発達.
干潟の特徴	有明海北部に流入する六角川の河口と河岸に発達する干潟である. 付近には, 福所江川・嘉瀬川などのやや小さな河川も流入している. 干潟・浅海域では, 漁業が盛んに行われている. 海岸部はすべて干拓地で, 目立った植生は見られなかった. 福富 (A) は干拓地前面に発達した広大な干潟で, 堤防付近の石積みを除けば, 泥-軟泥質の干潟である. 漁業権の関係で船を使用できなかったため, 調査は海岸部のみで行った. 芦刈 (B) は河岸の干潟で, 一部は干潟観察施設および保護区として整備されている. ヨシ・シチメンソウなどの群落も見られたが, 大部分は貧弱であった. 江北 (C) は牛津川との合流付近で, やや下流部に河口堰がある. 河岸部には軟泥質の干潟が発達しており, 干潟上部は密なヨシ原となっている.
生物相の特徴	海岸部 (A) には, ヤマトオサガニ・シオマネキ・多毛類が多く, 干潟表面にはアラムシロガイなどの巻貝が多く見られた. 河岸部のうち, やや下流の B には, ホソイトゴカイ, フトヘナタリなどのヘナタリ類, シオマネキ・アリアケガニなどのスナガニ類, ****・****などが多かった. やや上流部の C には, ハラグクレチゴガニ・アリアケガニなどのスナガニ類, ****が多く, 上部のヨシ原 (植生) には, カワザンショウ類, ヘナタリ類, ヒロクチカノコ, ****などの巻貝が多かった.
調査者氏名	逸見泰久, 坂本公太郎, 平野光祐, 上野至朗
調査年月日	2003年4月28日

干潟の名称	永浦
干潟の所在地	熊本県天草郡松島町永浦
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	前浜干潟
干潟の底質	永浦 (A) : 砂泥～泥質, 横島 (B) : 砂泥～泥質, 部分的に砂礫・転石, 中の橋 (C) : 砂～砂泥質
干潟植生	A 上部にわずかにヨシ原があるのみ.
干潟の特徴	永浦島周辺に広がる干潟で, 底質は軟泥～砂質, 砂礫質, 転石と多様である. 漁業活動はほとんど行われていない. 調査を行ったヨシ原 (植生) は干潟 (A) とは道路で隔てられており, 水路を通して海水が出入りしている. 干潟 (A) は 20 年ほど前までは海水浴場であったが, 現在は利用されていない. クルマエビの養殖場と温泉旅館が隣接しており, 反対側に干潟 (B) が続く. A, B 共干潟上部には堤防がある. 干潟 (B) は干潮時には陸続きになる横島周辺の干潟で, 転石が多い. 底質は砂礫・砂泥・泥質と多様で, 潮だまりも多い. 干潟 (C) は天草ビジターセンターに隣接する干潟で, 周囲は岩礁, 後背地にはクロマツなどの植生帯が自然に近い状態で続く.
生物相の特徴	ヨシ原 (植生) の生物相は貧弱で, アシハラガニなどのイワガニ類が比較的多く見られる程度であった. 干潟 (A) は生物相が豊かで, 上部にはハクセンシオマネキ, 中部にはホソウミニナ・ユビナガホンヤドカリなどが多かった他, 下部ではホシムシ類・イカリナマコ類などが見られた. 干潟 (B) にはアサリ・マガキ・アナジャコ・スナガニ類が多かった. また, 転石が多かったため, スガイなど岩礁性の生物も見られた. 干潟 (C) には多毛類, コメツキガニ・オサガニなどのスナガニ類, トゲイカリナマコなどのナマコ類が多かった.
調査者氏名	逸見泰久, 甲斐孝之, 坂本公太郎, 上野至朗, 武田美由紀
調査年月日	2003 年 4 月 21 日, 4 月 30 日

干潟の名称	大野川
干潟の所在地	熊本県松橋町, 不知火町
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	海岸 (A) : 砂泥〜軟泥質, 干潟上部の一部は, 砂礫・転石・岩礁帯, 下部にはカキ礁あり, 河口 (B) : 泥〜軟泥質, 干潟下部にカキ礁あり, 河岸 (C) : 砂泥〜泥質
干潟植生	海岸の一部と大野川感潮域 (C およびその上流域) にヨシ原が発達
干潟の特徴	大野川河口に広がる干潟で, 不知火干拓があるため, やや閉鎖的環境である. 大野川の他, 五丁川・砂川が流入する. 漁業も比較的盛んで, 二枚貝やエビ類が漁獲される他, マガキ養殖や海苔養殖が行われている. 北部の海岸 (A) は護岸されているが, 自然がよく残っており, 山間部から淡水の流入があるため, 潮間帯上部には部分的ではあるがヨシなどの植生が見られる. 部分的には砂礫・転石・岩礁帯になっているが, 潮間帯の大部分は泥〜軟泥質である. 南部の海岸には植生や砂礫・転石・岩礁帯はない. 干潟部には, 部分的にカキ磯やホトトギスのマットが見られる. 大野川の河口 (B) の大部分は軟泥質の干潟で, 川岸はコンクリート護岸されている. 一方, 上流部 (C) は石垣程度の護岸しかないため, 植生が豊かである. ヨシ原の下部が, 砂泥から泥質の干潟になっている.
生物相の特徴	不知火町海岸部 (A) の干潟上部にはヘナタリ類が非常に多く, 他にヤマトオサガニや****なども多く見られた. 干潟下部は部分的にカキ磯やホトトギスがマットを形成しており, ゴカイ類が多かった. また, オプション調査ではあるが, 干潟上部でウマイマイ, 下部でハイガイが確認された. 大野川河口部 (B) でもヘナタリ類・****が多かったが, やや上流部 (C) には, ヘナタリ類の他, シオマネキなどのスナガニ類が多かった. また, ヨシ原 (植生) では, ヒロクチカノコやヤベカワモチなどが多く見られた.
調査者氏名	逸見泰久, 甲斐孝之, 川田和博, 平和樹, 長浜朋昭
調査年月日	2003年5月2日 (A3以外), 10月8日 (A3), 10月10日 (オプション)

干潟の名称	緑川
干潟の所在地	熊本県宇土市・熊本市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟（一部は前浜干潟）
干潟の底質	A：砂→砂泥質，干潟上部にわずかに岩礁あり，B・C：砂泥→軟泥質
干潟植生	緑川河岸部（C）はヨシを主体とする湿地植生が豊富
干潟の特徴	有明海東部に注ぐ緑川河口に広がる干潟である。ほとんどの海岸部で埋立（干拓）や護岸が行われているため，植生（ヨシ原）は河岸部のみに見られる。漁業の盛んな地域で，アサリ・ハマグリ・マテガイなどの二枚貝が漁獲される他，海苔養殖（干潟部では支柱式，沖では浮流し式）も広く行われている。緑川から最も離れた御輿来（A）には，砂質→砂泥質の干潟が広がっており，緑川の影響を強く受けてはいるものの，前浜的性質も強い。干潟上部にはわずかに岩礁がある。近年，マリーナ建設のために隣接海岸部が埋め立てられた。緑川河口部の住吉（B）は，砂泥→泥質の干潟で，アサリの漁場となっている。一方，緑川河岸部の多くはヨシ原になっており，ヨシ原下部に泥→軟泥の干潟が発達する（植生，C）。
生物相の特徴	ヨシ原（植生）にはクロベンケイガニ・ベンケイガニなどのイワガニ類，****・ヒロクチカノコなどの巻貝が多かった。御輿来（A）にはマテガイが多い他，イソギンチャク類・多毛類が多かった。住吉（B）にはアサリ・アナジャコ科の1種が多い他，タイラギ・ヒメヤマトオサガニ・ミドリシャミセンガイなども見られた。平木（C）には <i>Corophium</i> 属の1種・チゴガニ・イトメが多く，アリアケガニ・アリアケモドキなども見られた。
調査者氏名	逸見泰久，甲斐孝之，上野至朗，武田深幸
調査年月日	2003年5月5日

干潟の名称	守江湾
干潟の所在地	大分県杵築市
干潟の面積	約300ha
干潟の地形タイプ	前浜干潟
干潟の底質	主に砂・砂泥（一部で礫、泥）
干潟植生	塩生植物なし。ただし、B地点低潮線付近にアマモとコアマモの比較的大きい群生あり。
干潟の特徴	国東半島の南岸、別府湾の支湾である守江湾のほぼ全域に広がる広い干潟である。複数の河川が流入しているが、最も大きな河川は湾の西部に流入する八坂川（全長30km、流域面積130km ² 、流量約10万トン/日）である。干潟の底質は主に砂質であるが、干潟上部に礫の堆積が見られるところがあり（特に江頭川河口のB地点など）、また、部分的に砂泥質あるいは泥質の所もある。これまで大きな沿岸開発を免れ、一般的に自然環境がよく保たれている。たとえば、主要な流入河川である八坂川には大きなダムや堰がない（八坂かっぱクラブ編2003）。ハマグリ、マテガイなどの二枚貝が日常的に漁獲されており、南部の湾口部に近い低潮線付近では、冬期の海苔養殖のための杭が林立している。
生物相の特徴	二枚貝類がきわめて豊富である。色彩多型が著しい日本在来種のアマガリが広範囲に高密度で生息しており、日常的に漁獲されていることや、ムラサキガイやタイラギなどの生息が確認されたことは特筆すべきことである。B地点の下部では、オオノガイがきわめて高密度に生息していた。ツバサゴカイ、ダルマゴカイ、ケヤリムシ、タマシキゴカイなど大型多毛類の生息も確認された。B地点の干潟上部（泥質部）では、カブトガニの成体および幼体も採集された。このカブトガニ個体群については清野ら（2000）などによって継続的に調査されている（別記文献リスト参照）。最近この干潟を調査した他の研究者の情報によれば、特筆すべき種として***の生息が確認されている（山下博由、私信）ほか、キツキカワザンショウ（未記載種、鈴木田・福田ほか準備中）が干潟に高密度で生息する（福田・山下、2004）。これらの点は、この干潟において、砂質の生息環境と、泥質の生息環境が隣接しながら共に本来の良好な状態を維持しながら保たれていることを示しているように思われる。
調査者氏名	佐藤正典，大岩功，加藤寛人，松下聖（現地協力：綿末しのぶ， まとめに関する協力：清野聡子，山下博由）
調査年月日	2004年7月2～3日

干潟の名称	小深江漁港周辺
干潟の所在地	大分県速見郡日出町
干潟の面積	約1ha
干潟の地形タイプ	河口干潟（ただし、入江の小溪流の河口に発達したもの）
干潟の底質	礫、砂泥、泥
干潟植生	ハマボウ、ヨシ、ナガミノオニシバ、フクド
干潟の特徴	<p>別府湾の北岸（国東半島の南の付根）の小さな入江に位置する。入江の奥部から小川が流入しており、その流れに沿って長さ約200m、幅約50mの細長い干潟が形成されていた。周囲を広葉樹林が繁茂する丘陵に囲まれ、水辺に人工護岸のないきわめて自然度の高い干潟であった。しかし、2000年に、国の「漁港高度利用活性化対策事業」によるプレジャーボートの係留施設建設のため、干潟の下部（湾口部側）の3470㎡の干潟が2.5-3mの深さで掘削され、浮棧橋の施設が作られた（1999年1月13日付の大分合同新聞および1999年10月10日付の朝日新聞参照）。</p> <p>残された干潟の高潮帯にはハマボウを主体とする塩生植物群落がある。淡水域か海水域までの広範囲の塩分環境が凝縮されて存在し、また底質環境も礫、砂泥、泥と多様であるため、それに応じて多様な底生生物を狭い範囲内で見ることができる。</p>
生物相の特徴	<p>干潟表面にはヘナタリ類およびウミニナ類の密度が高く、貝類では****、****、****、****など、カニ類ではシオマネキ、ハクセンシオマネキなどの希少種の生息が確認された。山下（1999）は、1999年9-10月にここで貝類相の調査を行ない、41種の生息を確認しているが、その半数は、国内のレッドデータブックなどで絶滅の恐れがあるとされる種である。</p>
調査者氏名	佐藤正典，大岩功，加藤寛人，松下聖（現地協力：綿末しのぶ，岸野博史，まとの協力：山下博由）
調査年月日	2004年7月3日

干潟の名称	臼杵
干潟の所在地	大分県臼杵市
干潟の面積	約100ha
干潟の地形タイプ	前浜干潟（A地点）および河口干潟（B地点）
干潟の底質	主に砂（一部で礫、砂泥、泥）
干潟植生	B地点から上流部にヨシ原とハマサジなどの塩生植物群落が見られる。ハマボウの大きな群落も存在する。A地点にはコアマモの群生あり。
干潟の特徴	豊後水道の臼杵湾の奥部に流入する臼杵川の河口域およびその河口部北側に位置する干潟である。「的場ヶ浜干潟」と呼ばれる河口部北側の前浜干潟は、美しい砂質干潟である（干潟上部には転石帯がある）。河口域内部の干潟には、砂泥質あるいは泥質の所もあり、礫や転石の堆積も頻繁に見られる。地元の市民グループ（臼杵デザイン会議など）が長年、調査・保全活動を行なっている。1994年、港湾整備計画として、的場ヶ浜干潟を含む60haの埋立が計画された。その後の反対運動によって計画は大幅に縮小されたが、干潟の一部が埋め立てられて船溜となった（写真参照）。市民グループによる生物観察会などが頻繁に催されている。冬の夜に、「ウミサボテンの発光の観察」をメインテーマにした観察会が実施されている、おそらく日本で唯一の場所ではないかと思われる。参考文献：さといも 1999「夜のひがたへようこそ」臼杵デザイン会議、九州・琉球湿地ネットワーク編 1999「1999九州・南西諸島湿地レポート」九州・琉球湿地ネットワーク。
生物相の特徴	前浜干潟（A地点）では、ワダツミギボシムシやタマシキゴカイが確認されたほか、イボキサゴ（巻貝類）がきわめて高密度に生息していたことが特筆される。コアマモ帯にはアサリが高密度で生息していた。最近の地元住民の観察記録によれば、ここではウミサボテン、ムラサキハナギンチャク、サクラガイ（以上、写真参照）やスナタバムシ（ツバサゴカイ科多毛類）も生息しているが、今回の調査では台風接近のため潮間帯下部の調査が十分にできず、これらの種を確認できなかった。河口干潟（B地点）では、色彩多型が著しい日本在来のハマグリやヒメシラトリなどの二枚貝が比較的高密度で生息しており、また、ハクセンシオマネキ、ウモレベンケイガニなどの希少カニ類の生息も確認された。
調査者氏名	佐藤正典, 大岩功, 松下聖（現地協力：斉藤行雄, 竹内義昭）
調査年月日	2004年8月28日

干潟の名称	本城川
干潟の所在地	宮崎県串間市
干潟の面積	約20ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	砂礫、砂泥、泥
干潟植生	ヨシ原や塩生植物帯（ナガミノオニシバ、ハマサジなど）
干潟の特徴	志布志湾に流入する本城川（幹線流路：約9 km）の河口域内に位置する。河口部が大きく膨らんでいるので、小さな水系のわりに比較的大きな河口干潟が発達している。都市圏から遠く離れているため、干潟およびその周辺は人工的な改変をほとんど受けておらず、自然環境がよく保たれている。川の周囲は大部分が山林と農地であり、農薬以外の汚染源は見当たらない。
生物相の特徴	A地点では、シオマネキが普通に見られるほか、ヘナタリ類やウミニナの密度も高い。A地点より下流のヨシ原周辺には、ハクセンシオマネキの大集団が存在するが（佐藤，1997）、今回は、天候悪化のためそこを調査できなかった。上流部のB地点では、***やカワスナガニが比較的高密度で生息しているという点で特筆すべきである。
調査者氏名	佐藤正典，ザジリ・ハナフィア，森本陽介，迫田浩幸，盆子原寛
調査年月日	2003年6月14日

干潟の名称	志布志湾
干潟の所在地	鹿児島県大崎町および志布志町
干潟の面積	約10ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	砂、砂泥、泥
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	志布志湾に流入する菱田川と安楽川の河口域内に位置する。調査地点のすぐ上流からはコンクリート護岸が施されており、干潟はほとんど発達していない。主に砂質であり、河口近くに砂州があり、その外側には砂浜が広がる。
生物相の特徴	干潟が狭いためか、生物相は貧困であった（総種数は20種）。しかし、A地点での****の高密度の生息は特筆すべきである。
調査者氏名	佐藤正典, ザジリ・ハナフィア, 森本陽介, 迫田浩幸, 盆子原寛
調査年月日	2003年6月13日

干潟の名称	天降川
干潟の所在地	鹿児島県始良郡隼人町および国分市
干潟の面積	約50ha
干潟の地形タイプ	河口干潟、および前浜干潟
干潟の底質	砂、砂泥
干潟植生	ヨシ
干潟の特徴	錦江湾（鹿児島湾）の最奥部に位置する。河口周辺は古くからの干拓地で、コンクリート護岸で囲まれており、高潮帯のヨシ原などの植生はほとんど残されていない。河口の外側に主に砂質の前浜干潟が発達し、河口内部に主に砂泥質の河口干潟が存在する。河口から約1.5km上流に堰があり、ここで海水の遡上が妨げられている。最近、河口の外側のA地点付近（通称：住吉海岸）では、港湾整備という名目で、2.2haの干潟を埋め立て新埠頭を建設する計画が進められ、現在、着工寸前の状態にある。
生物相の特徴	比較的低塩分のC地点より上流部は、****の群生地として特筆される。下流部のB地点およびA地点では、ウミニナ、ムギワラムシ、スゴカイイソメが多産する。佐藤らの1999年5月の調査では、A地点において、ヒラタブンブク（棘皮動物）が高密度で生息していたが、今回は確認できなかった。
調査者氏名	佐藤正典，ザジリ・ハナフィア，森本陽介，迫田浩幸，盆子原寛
調査年月日	2003年8月28日

干潟の名称	田古里川
干潟の所在地	佐賀県太良町
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	植生(泥地), A地点(砂泥, 一部礫が混じる), B地点(泥, カキ殻多し), C地点(泥-軟泥, カキ殻多し)
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	田古里川の河口干潟. ただし, 田古里川は小河川であるため, 海岸部の砂泥は海から供給されたものと思われる(前浜的). 植生は田古里川の感潮域最上部にある小規模のヨシ原で, C地点に隣接する. A地点は, 海岸部で, アサリの漁場になっている他, 隣接する海岸ではマガキも養殖されていた. B地点は, 入り江部分の干潟で, 底質はかなり還元化していた. C地点は, 感潮域最上部の干潟で, 転石が多い他, 底質にも礫が混じっていた.
生物相の特徴	植生には, ヒロクチカノコが多く, カワザンショウ類・ヘナタリ類・クロベンケイガニ・ベンケイガニ・クシテガニ・アリアケモドキも少なくなかった. また, ****やアリアケガニも確認された. A地点には, ツバサゴカイ・コケガラス・サルボウ・アサリ・ヤマトオサガニなど底生動物が豊富で, ****も確認された. B地点の一部はカキ礁になっており, ハサミシャコエビが多い他, カリガネエガイ・ウネナシトマヤガイ・アサリ・ヤマトオサガニも少なくなかった. また, ****も確認された. C地点にもカキ礁が多く, ウミニナ類・ヘナタリ類の他, ハゼ科魚類が多く見られた. なお, 外来種コウロエンカワヒバリガイがB・C地点で確認された.
調査者氏名	逸見泰久, 甲斐孝之, 上野至朗, 平和樹
調査年月日	2004年3月7日

干潟の名称	塩田川
干潟の所在地	佐賀県鹿島市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	主に軟泥, A地点のみ一部泥地でカキ礁が広がっている.
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	塩田川河口の広大な干潟. 大部分の底質は軟泥で, 一部は強く還元化していた. 植生調査は, 塩田川の河岸部 (C地点の上部) で行った. 周辺は船着場になっていた. A地点は, 塩田川地先である. 沖合の干潟では材木を組んでマガキの養殖が行われていた. 干潟上にもマガキは多く, 大部分の底質は還元化していた. また, 軟泥というより, 浮泥という方が適切な地点もあった. B地点は, 塩田川の河岸で, 底質は軟泥であった. なお, 調査当日には, 地元の漁業者が潟スキーを用いてワラスボ掻きを行っていた. C地点も, 塩田川の河岸であった. 大部分が軟泥であったが, 棧橋があったため, 調査が可能であった. なお, 干潟下部には浮泥が堆積していた.
生物相の特徴	植生には, ハラグクレチゴガニが多かった. 他に, ヘナタリ類・ヒロクチカノコ・クシテガニ・アリアケガニ・****・****も多かった. また, ヒラヌマタコダキガイ (外来種) も確認された. A地点の大部分はカキ礁で, 周辺には, カラムシロ・テッポウエビの1種・ヒメケフサイソガニ・ヤマトオサガニが多かった. B地点には底生動物が少なく, 干潟上部で, シオマネキ・ヤマトオサガニが多数見られた程度であった. なお, 枠外であるが, ミドリシャミセンガイも少なくなかった. C地点にはハラグクレチゴガニ, 次いで, ハサミシャコエビ・クシテガニ・アリアケガニが多かったが, 干潟下部の浮泥地ではほとんど底生動物が見られなかった.
調査者氏名	逸見泰久, 渡部哲也, 上野至朗, 平和樹
調査年月日	2004年4月19日, 9月14日

干潟の名称	伊万里湾
干潟の所在地	佐賀県伊万里市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	内湾に発達した前浜干潟と小河川の河口干潟
干潟の底質	植生(泥), A(砂-泥, 潮間帯下部にカキ礁あり), B(泥-砂泥), C(砂-軟泥)
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	伊万里湾奥部に発達する干潟である。植生調査は有田川に発達する小規模なヨシ原で行った。底質は泥質で、位置はC地点の最上部、調査地点の川幅は約100mであった。A地点は伊万里湾の東岸で伊万里川の河口に近い。カブトガニの生息地として知られる場所で、干潟上部は砂-砂泥地、下部は泥地でカキ礁が発達していた。B地点は伊万里湾の中央に中洲状に発達する干潟で、調査は西半分で行った。干潟上部は砂地、下部(堤防付近)は泥地であった。C地点は有田川の河岸で、主として泥地であった。
生物相の特徴	植生では、フトヘナタリ・****・アリアケガニ・アリアケモドキなど他地域では希少種となっている種類が見られたが、外来種のコウロエンカワヒバリガイも確認された(A地点でも確認)。A地点には、オキシジミ・ヤマトオサガニが多く、****が確認された。B地点にも、オキシジミ・ヤマトオサガニが多かったが、他に、ハマグリも多く、ハイガイも確認された。C地点には、ウミニナ類・ヘナタリ類の巻貝と、アシハラガニ・チゴガニ・ヤマトオサガニなどのカニ類が多く見られた。
調査者氏名	逸見泰久, 甲斐孝之, 上野至朗, 川内識史
調査年月日	2004年4月24日

干潟の名称	菊池川
干潟の所在地	熊本県玉名市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	植生(砂～砂泥), A地点(砂泥), B地点(砂泥, 一部は砂), C地点(泥, 一部は軟泥).
干潟植生	主にヨシ, 周辺部にシオクグ.
干潟の特徴	菊池川の河岸・河口の干潟. 河川域ではシジミ類, 河口域ではアサリが漁獲されている. 植生調査地は, 河口から3km程上流のヨシ原で, C地点の上部にあたる. 河岸部には堤防がなく, すぐ道路になっていた. A地点は, 松原海水浴場で, アサリの漁場であった. 大潮時には, 沖合2km程度まで干潟が干出した. B地点は, 河口近くの干潟で, 地元民によってハマグリが採集されていた. C地点は, ヨシ原下部の干潟で, ヨシ原の周囲は畑地であった.
生物相の特徴	植生には, ****・クシテガニ・チゴガニが, 次いで, カワザンショウ類・ヘナタリ類・アリアケガニが多かった. また, 僅かではあったが, タイワンシジミが確認された. A地点には, フサゴカイ類・シオフキ・アナジャコ, 次いで, マルテンスマツムシ・アサリ・オサガニが多かった. また, ツバサゴカイ・アンチラサメハダホシムシも確認された. B地点には, コメツキガニが多かった. 他に, ハマグリ・オチバガイ・ヒメケフサイソガニが確認された. C地点には, チゴガニ, 次いで, ヤマトオサガニが多かった. 他に, コウロエンカワヒバリガイ・ハラグクレチゴガニ・アリアケガニ・****・****が確認された.
調査者氏名	逸見泰久, 渡部哲也, 平和樹
調査年月日	2004年4月22日

干潟の名称	塩屋海岸
干潟の所在地	熊本市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	白川・緑川の河口に発達した河口干潟
干潟の底質	主として泥質。一部、砂泥質。
干潟植生	ほとんど植生は見られない。小規模なヨシ原が坪井川河口に見られるのみ。
干潟の特徴	****・センベシアワモチが多産し、****が見られた塩屋地区の湿地は、漁港の拡張工事で完全に消失した。そのため、調査は、河内地区から坪井川河口の広い範囲で行った。植生調査は坪井川河口のヨシ原で行った。坪井川は小川で、河口の干潟は隣接する白川・緑川の影響が大きい。A地点は、河内地区の干潟で、主として砂泥地である。春季を中心にアサリの漁獲が行われている。B地点は、坪井川河口の干潟で、主として泥地であった。C地点は、坪井川と白川に囲まれた干潟で、調査は防波堤に沿って行った。砂泥から泥で、干潟下部ではアサリ漁場となっていた。
生物相の特徴	植生は大変小規模なものであったが、アズキカワザンショウ・****・クシテガニ・アリアケガニなど多くの種が確認された。A地点には、ムギワラムシ・アサリ・シオフキ、次いで、シマメノウフネガイ（外来種）・コケガラス・トゲイカリナマコが多かった他、ハイガイ・タイラギも確認された。B地点には、マルテンスマツムシ・ヤマトオサガニ、次いで、アサリ・シオフキ・マメコブシガニが多かった他、アリアケケボリガイ・****も確認された。C地点には、マガキ・アサリ・ヤマトオサガニ、次いで、コウロエンカワヒバリガイ（外来種）・シオフキ・シロスジフジツボ・ヤマトオサガニ・ムツハアリアケガニが多かった他、ミドリシャミセンガイも確認された。なお、枠外ではあったが、C地点で、サキグロタマツメタ・ゴマフダマが確認された。
調査者氏名	逸見泰久，甲斐孝之，渡部哲也，平和樹
調査年月日	2004年5月8日，5月21日

干潟の名称	本渡干潟
干潟の所在地	熊本県本渡市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	前浜干潟（一部は河口干潟）
干潟の底質	茂木根（A）：砂～砂泥質，広瀬川（B）：砂泥（礫・転石多し），瀬戸（C）：砂～砂泥質
干潟植生	なし
干潟の特徴	本渡瀬戸周辺に点在する干潟群である。大部分は砂質の前浜干潟であるが，広瀬川・亀川河口には小規模な河口干潟が見られる。大部分の干潟は潮間帯下部にあり，小潮時には干出ししない。干潟ではアサリなどの二枚貝が漁獲されているが，近年，漁獲量が激減している。干潟群の中央に本渡港があり，航路確保のために海底土砂が浚渫されている。茂木根（A）は茂木根川が流入する海水浴場であるが，流入土砂は少なく，前浜干潟の性質が強い。防波堤建設など，近年，環境の改変が著しい。広瀬川（B）河口は礫・転石の多い干潟であるが，アサリが多く，潮干狩りが盛んである。瀬戸（C）の干潟は「本渡干潟」と呼ばれ，市民に親しまれている。また，小規模ではあるが，ガザミやクルマエビなどの畜養が行われている。
生物相の特徴	茂木根（A）にはムギワラムシなどのゴカイ類，ニホンスナモグリ，ハゼ科魚類が多く，ハマグリ・バカガイなどの二枚貝も見られた。広瀬川（B）にはホソウミニナ，アサリ・オキシジミなどの二枚貝，ハクセンシオマネキ・チゴガニなどのスナガニ類が多く，転石地ではヒザラガイ・ヒライソガニも見られた。瀬戸（C）にはムギワラムシ・イボキサゴ・サンショウウニが多く，ウミサボテン・ツバサゴカイ・****なども見られた。
調査者氏名	逸見泰久，甲斐孝之，川田和博，平和樹，武田深幸
調査年月日	2003年9月27日

干潟の名称	氷川
干潟の所在地	熊本県八代郡竜北町・鏡町
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	植生地は泥質，A地点は砂泥質（一部は砂質），B地点は泥質（一部は砂泥），C地点は泥～軟泥。
干潟植生	ヨシを主体とし，フクド，ナガミノオニシバ，シオクグが散在。
干潟の特徴	八代海奥部の氷川河口に広がる干潟。植生調査地は，河川中央の中洲にある広大なヨシ原で，C地点の上部にあたる。A地点は，野崎地先で，2km以上沖合まで砂泥質の干潟が広がっていた。B地点は，不知火干拓地先で。干潟下部にはホトトギスガイがマット状に散在していた。C地点は，植生調査地の下部である。中洲の北部には支流が流れ，干潮時には滞筋が残る程度であった。なお，河岸・海岸部はすべてコンクリートで護岸されていた。
生物相の特徴	植生には，ヘナタリ類・カニ類（クシテガニなど）が多かった他，アズキカワザンショウ・ヒロクチカノコ・アリアケガニなども確認された。A地点には，アサリ・シオフキ・マテガイ・オサガニ・トゲイカリナマコが多かった他，アリアケケボリガイ・ミドリシャミセンガイ・****・****も確認された。また，枠外ではあるが，ハイガイ・タイラギ・ムツハアリアケガニも確認された。B地点上部には，カワアイ・ヤマトオサガニが多かった。下部には，ホトトギスのマットが散在し，アラムシロが多い他，1個体ではあるがコケガラスが採集された（八代海初記録）。C地点には，ヘナタリ類・ヤマトオサガニが多かった他，シオマネキ・アリアケモドキ・****・****も少なくなかった。
調査者氏名	逸見泰久，甲斐孝之，平和樹，島崎英行，坂本良
調査年月日	2003年10月8日，2004年6月29日，9月16日

干潟の名称	熊野江
干潟の所在地	宮崎県延岡市熊野江町
干潟の面積	約50ha
干潟の地形タイプ	前浜干潟 (A 地点) および河口干潟 (B 地点)
干潟の底質	砂 (A 地点)、砂泥または泥 (B 地点)
干潟植生	河口域内 (B 地点) にヨシ原が広く発達する。
干潟の特徴	宮崎県北部の日向灘に面したリアス式海岸の小さな入江に位置する小規模な干潟である。人口密集地から遠く離れていることから自然環境がきわめてよく保存されている。流入河川 (熊野江川) は小さいが、その河口部は幅広く、広大なヨシ原が発達している。前浜干潟の A 地点は美しい砂浜である。
生物相の特徴	A 地点の砂浜では、生物の現存量は全体的に小さかったが、潮間帯上部には、このようなきれいな砂浜に特徴的な <i>Euzomus</i> sp. (オフエリアゴカイ科) が多産した。A 地点の下部では、ハルマンズナモグリが低密度に生息していたが、そのナモグリ個体に近接してギボシイソメ科の 1 種が採集されたことが特筆される (両者の間には何らかの共生関係があるのかもしれない)。B 地点の河口干潟では、底生動物の種数、現存量が共に大きかった。腹足類のカノコガイ、イシマキ、フトヘナタリなどが多産し、ミヤコドリも比較的多かった。二枚貝では、ハザクラが多産した。トゲアシヒライソモドキやアリアケモドキ近似種などきわめて稀なカニ類が採集されたことも特筆すべきことである。ただし、多毛類は少なかった。
調査者氏名	佐藤正典, 大岩功, 加藤寛人, 松下聖, 浜本麦 (現地協力: 三浦知之, 狩野泰則, 矢野香織, ほか宮崎大学グループ)
調査年月日	2004年5月7日

干潟の名称	北川・五ヶ瀬川
干潟の所在地	宮崎県延岡市
干潟の面積	約100ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	砂、砂泥、泥
干潟植生	ヨシ原が広く発達する。
干潟の特徴	宮崎県北部の日向灘に注ぐ北川、祝子川、五ヶ瀬川が河口部で合流し、比較的大きな河口域(汽水域)が形成されている。干潟の底質は場所によって多様で、河口域全体にヨシ原がよく発達している。全般的に沿岸部の自然環境がよく保たれている。地元民がヤマトシジミなどの二枚貝を漁獲していた。
生物相の特徴	A地点では二枚貝類がきわめて豊富であり、特にイソシジミが多かった。タイワンヒライソモドキやトゲアシヒライソモドキなどの珍種のカニ類が多産したことも特筆すべきことである。****も多産した。このように自然度が高い干潟であっても、外来種のコウロエンカワヒバリガイが確認された。A地点のヨシ原中の朽ち木から、国内初記録の <i>Nausitora duniopei</i> (二枚貝綱フナクイムシ科) が確認されたこと(東京大学の芳賀氏による同定)も特筆すべきことである。
調査者氏名	佐藤正典, 大岩功, 加藤寛人, 松下聖, 浜本麦(現地協力: 三浦知之, 狩野泰則, 矢野香織, ほか宮崎大学グループ)
調査年月日	2004年5月6日

干潟の名称	万之瀬川
干潟の所在地	鹿児島県加世田市
干潟の面積	約 150 ha
干潟の地形タイプ	河口干潟、および前浜干潟
干潟の底質	砂、砂泥
干潟植生	ハマボウ、ヨシ、ナガミノオニシバ
干潟の特徴	東シナ海に面した薩摩半島西岸に位置する。南九州では最大規模の河口干潟（河口部の川幅約 400m）。河口の外側は南北に長大な砂浜（吹上浜）が伸びている。河口周辺は、鳥獣保護区に指定されており、クロツラヘラサギなどの希少種を含めこれまでに 130 種以上の野鳥が確認されている。B 地点周辺には、川の左岸約 1.6km にわたってハマボウ（アオイ科）が 1000 株以上群生しており、その規模は九州一と思われる（甲斐・吉崎，私信）。これらの植生を含めて、これまで自然環境が比較的良好に保たれてきたが、現在、河口域全体に渡って、大規模な河川改修工事が計画中であり、ヨシ原のコンクリート護岸化や川底の浚渫工事などが計画され、河口部では長さ 650m におよぶ導流堤の建設も計画されている。もし計画通りに工事が実行されれば、干潟環境が致命的な破壊を被る可能性が高い。このほか、近年上流部に建設された金峰ダムの影響も懸念される。
生物相の特徴	B 地点のハマボウ群生地の下方に広がる砂泥干潟は、国内最大規模のハクセンシオマネキの群生地となっている（最大密度約 100 個体/m ² 、総個体数 30 万以上、甲斐・吉崎，私信）。また、ここから河口にかけては、イソシジミ、ソトオリガイ、ハザクラ、ハマグリ、ヤマトシジミなどの二枚貝が多く、ハマグリやヤマトシジミは地元の人々に漁獲されている（今回の調査では、ヤマトシジミは採集できなかった）。これらの二枚貝の殻中にはフタハピンノが高い頻度で共生している（佐藤正典、発表準備中）。ここは現在知られているフタハピンノの唯一の健在産地である。全国的に減少しているハマグリ産地（ほぼ南限）としても重要である。比較的低塩分の C 地点は、****の群生地として特筆される。ただし、ここでは同時に外来種であるタイワンシジミの生息も確認された。
調査者氏名	佐藤正典，ザジリ・ハナフィア，森本陽介，迫田浩幸，盆子原寛，佐々木美佳
調査年月日	2003 年 4 月 7 日

干潟の名称	浦内湾（上甌島）
干潟の所在地	鹿児島県上甌村
干潟の面積	約300ha
干潟の地形タイプ	内湾奥部
干潟の底質	砂礫、転石
干潟植生	ナガミノオニシバ
干潟の特徴	黒潮分流の影響を強く受ける上甌島において、深く入り込んだ浦内湾の奥部に発達した干潟。底質は転石、礫を主体とする。過疎地であるために自然環境がよく保たれているが、A地点の奥部では最近工事が行なわれた形跡がある。A地点、B地点共に、小さな河川が流入している。高潮帯での植生の発達は悪い。
生物相の特徴	埋在性の種だけでなく、転石下に隠れたり転石表面に付着する種も生息しているため、全体的に種数が多い（総種数は54種）。局所的ながら、砂干潟の代表種であるイボキサゴやツバサゴカイの生息が確認された。
調査者氏名	佐藤正典, ザジリ・ハナフィア, 森本陽介
調査年月日	2003年5月15日

干潟の名称	なまこ池・貝池
干潟の所在地	鹿児島県上甕村
干潟の面積	10ha 以下
干潟の地形タイプ	汽水湖（海跡湖）
干潟の底質	砂礫、小石
干潟植生	ヨシ原
干潟の特徴	長い砂州の発達によって入江が仕切られてできた4つの海跡湖のうち、最大の海鼠池（面積：0.56km ² 、最大水深：22.6m）は、最も塩分が高く（今回の調査時の表層水の塩分は、15.6）、海鼠が漁獲されている。海水は砂州を構成する玉石の間隙を通過して出入りしており、潮汐は外海に比べて3-4時間遅れる。その隣に位置する貝池（面積：0.16km ² 、最大水深：12m）は、細い水路で海鼠池とつながっている（今回の調査の表層水の塩分は、13.5）。どちらの池でも、干潟は狭く、その底質粒子は粗い。外海からの波浪の影響を受けないという点で特異である。コンクリート護岸など的人為的な変化がほとんどなく、周辺の植生も含めて、自然環境がよく保たれている。貝池では、春から夏にかけて、比重の大きい高塩分水が底部に停滞し、その上を比重の小さい低塩分水が覆う顕著な密度成層が発達するため、水深約5mよりも深い所では、極度の貧酸素状態となり硫化水素が発生する。
生物相の特徴	干潟の生物相は貧困であった（総種数は12種）。ウミナナが高密度に生息しているのが特徴的であった。
調査者氏名	佐藤正典, ザジリ・ハナフィア, 森本陽介
調査年月日	2003年5月15~16日

干潟の名称	八坂川
干潟の所在地	大分県杵築市
干潟の面積	約100ha
干潟の地形タイプ	河口干潟
干潟の底質	砂、砂泥、泥（一部で礫）
干潟植生	A, B 両地点にヨシ原、B 地点付近にハマボウ群生あり。河口域にフクド・ハマサジの群落がある（SAP, 2002）。
干潟の特徴	<p>国東半島の南岸、守江湾に流入する八坂川（全長 30km、流域面積 130km²、流量約 10 万トン/日）の河口域（汽水域）に発達した干潟である。下流部の底質は砂質または泥質であるが、上流部では礫の堆積が多くなる。八坂川には大きなダムや堰がなく、流域の自然環境がよく保たれていたが、これまでたびたび洪水被害に見舞われてきたことから、治水目的の河川改修工事が行なわれてきた。2000-2001 年には、汽水域上部の河道の蛇行部を 1.6km にわたって直線化（ショートカット）する大規模な工事が実施され、多くの希少種を含む干潟生物にとっての多様な生息環境が失われた（かつての蛇行部は工事に伴って埋め立てられた）。これらの工事にもなう事前の環境調査によって、植物、底生生物、魚類、両性類、爬虫類、鳥類、哺乳類の工事前の生息状況は詳細に調査されている。市民グループによって、八坂川全域の自然環境についてのガイドブック「川は歌うー自然と人の多様性ー」（SAP, 2002）、「八坂川探検：八坂川フィールドノート」（綿末, 2003）が発行され、子どもたちを対象とした干潟などでの自然観察会などが頻繁に開かれている。</p>
生物相の特徴	<p>河口部周辺はカブトガニの産卵地になっていると思われる、過去にその卵や幼生が確認されているが（清野・宇多ほか, 1999）、今回の調査ではカブトガニは確認されなかった。河口付近の A 地点では、ハクセンシオマネキやヤマトオサガニなどのカニ類、オキシジミやソトオリガイなどの二枚貝が多かった。巻貝類では、ウミナシ類のほか、****や****などを多産するという点が特筆される。上流部の B 地点（上記のショートカット工事区間のやや下流部）の周辺ではヨシ原がよく発達しており、そこではシオマネキ、****、センバイアワモチなどの希少種の生息が確認された。また、近傍には、ハマボウ群落も存在した。本調査期間中（大潮時）、夜の満潮時に多数のアカテガニが幼生放出のため岸辺に集まっているのが観察された（写真参照）。B 地点ではまた、ヤマトシジミも採集された。ここから上流の広瀬橋にかけて（ショートカット工事区間）は、かつてはヤマトシジミの宝庫であった（綿末, 2003）。本調査時においても、広瀬橋付近でヤマトシジミが漁獲されていた。それよりさらに上流の八坂橋付近では、淡水産のマシジミが生息している（山下, 2002；綿末, 2003）。貝類については、ショートカット工事以前の調査では、八坂川河口域全域から 47 種の生息が確認されている（八坂川ショートカット区間動植物保護対策意見交換会資料 2, 2000）。</p> <p>八坂川河口干潟は、現在もなお多くの希少種が生息している貴重な干潟であり、また、守江湾全域のすぐれて自然度の高い生態系（別記）とも密接に結びついていると思われる。</p>
調査者氏名	佐藤正典, 大岩功, 加藤寛人, 松下聖（現地協力：綿末しのぶ, まとめに関する協力：清野聡子, 山下博由）
調査年月日	2004 年 7 月 2 日

干潟の名称	大浦川河口マングローブ干潟
干潟の所在地	鹿児島県中種子町および南種子町
干潟の面積	約50ha?
干潟の地形タイプ	河口マングローブ干潟
干潟の底質	主に砂、一部砂泥
干潟植生	メヒルギ、ハマジンチョウ、ナガミノオニシバ
干潟の特徴	種子島南東部の熊野灘に注ぐ大浦川の河口域に袋状のラグーン（潟湖、面積約1km ² ）が形成されており、その内側にマングローブ植生を伴った砂質干潟が発達している。マングローブ林は背丈の低い矮小化したメヒルギを主体とするが、一部にハマジンチョウ（ハマジンチョウ科）が混生する（町指定文化財）。これらの植生を含めて、自然環境はきわめてよく保たれている。全般的に有機質の乏しい底質のように見受けられる。
生物相の特徴	底生動物の出現種数は少なく（19種）、特定の種（コメツキガニやヨコヤアナジャコ・ブビエスナモグリなど）の個体数が多かった。二枚貝が全く採集されなかったこと、巻貝類では、ヘナタリ類が普通に見られる一方で、ウミニナ類がないことなどが特筆すべきことである。
調査者氏名	佐藤正典, ザジリ・ハナフィア, 森本陽介, 迫田浩幸, 盆子原寛
調査年月日	2003年3月22日

干潟の名称	羊角湾
干潟の所在地	熊本県天草郡河浦町, 牛深市
干潟の面積	
干潟の地形タイプ	羊角湾奥部に形成された河口干潟および前浜干潟
干潟の底質	植生(砂泥), A地点(砂泥, 一部はカキ礁), B地点(泥-砂泥, 石積みにマガキ多し), C地点(泥, 上部は礫混じりの砂泥).
干潟植生	主としてヒトモトススキ, 周囲にシオクグ・フクド.
干潟の特徴	羊角湾の奥部に発達した干潟で, 町田川・早浦川河口には河口干潟が広がるが, 河口から離れた干潟は前浜的である. 植生調査は, 早浦川河口の小規模なヒトモトススキ群落で行った. B地点とC地点の中央部にあたる. A地点は, 早浦川の河口干潟の西端部にあり, 潮上帯には礫浜になっていた. B地点は, 離島の上部である. C地点は, 早浦川の河口部である. 中止になった羊角湾埋立計画の名残で, 石積みが残っていた.
生物相の特徴	植生には, ウミニナ・フトヘナタリ・フナムシ・ユビアカベンケイガニ・フタバカクガニが多い他, ****・****・ウモレベンケイガニなどが確認された. A地点には, カキ礁が点在し, シロフジツボが多数付着していた他, 周囲には, ****・ホソウミニナ・シオヤガイが多く, ミヤコドリ・ユウシオガイ・****・ヒメベンケイガニ・サメハダホシムシも確認された. B地点では, マガキの他, カワアイ・シオヤガイ・ヒメヤマトオサガニが多かった. また, カキノテムシロ・ムツハアリアケガニ・サメハダホシムシも確認された. C地点には, マガキ周辺に, ヒバリガイモドキ・シロスジフジツボ・ユビナガホンヤドカリ・ケフサイソガニが多かった他, 泥地には, カワアイ・ヒメヤマトオサガニ・****が多かった. なお, 枠外であるが, B・C地点でハイガイが確認された.
調査者氏名	逸見泰久・森敬介・吉崎和美・甲斐孝之・渡部哲也
調査年月日	2004年7月31日